

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都市立 桂 中学校 第一学年 6クラス（223名） 育成学級生徒は交流クラスで体験
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 （人権学習） ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボール選手との交流を通して障がいのある人たちと共生する社会について考える。 ・車いす使用体験や体験談を聞くことを通して、誰もが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。 ・自分のクラスや学年を振り返り、互いに認め合う集団を築こうとする。
5 取組内容	<p>(事前学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手両足に障害のある、すがのあゆみさんのDVDを見て、みんながお互いに尊重しあい、ノーマルに生活していくための社会について考える学習を行った。 <p>(事業当日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすデモ ・全員車いす体験 コーンまでの一往復帰りは後ろ向きで ・車いすバスケットボール体験 各クラス女子5名男子5名の代表選手で 女子3分男子3分で1試合ずつ 4組対6組、5組対7組、2組対3組 ・車いすバスケットボール選手体験談（30分） ・質問 ・教室にて感想記入

6 主な成果

(生徒の感想文より)

○話を聞いて、私は「聞いてよかった。」と思いました。昨日あゆからのメッセージをみて、人権学習をしたときは、障がいを持っておられる方について考えましたが、あまり実感がわきませんでした。今日、話を聞いて色々な意味で本当に人権学習をしたと思います。私は昨日感想を書いたとき、障がいを持っている方に対し、思いやりなどを持って接すると考えたけれど、具体的にどうするのかなどを考えられませんでした。けれど、今日お話しの中でごみを道に捨てないや、ガムを捨てないなどを心掛けてほしいとおっしゃられていました。これは車いすの方に対し、実際に接することでなく間接的なことかもしれないけれど、自分にもできることだし、周りの人にひろめられると思うのでどんどんやりたいと思います。障がいを持っておられる方には様々な思いや考えを持ち、ふつうの人と変わらない生活をしている方がおられ、その方々に対し、良くない態度をとったりするのが、人権を守られていないということだと思います。なので、私は人権について考えられたので、しっかり守っていきたいです。

○選手の方の話を聞いて、日常の中でも大けがをしてしまう可能性はあるし、いきなり車いすでの生活をするようになったら、つらいこともたくさんあるということがわかった。そんな中でも、バスケットボールの選手として活躍したり、働いて家族と生活したりするなど、障害の壁を乗り越えていきているのはとてもすごいことだと思う。その前向きな姿勢を私も普段の生活に生かしていきたいと感じた。車いすに乗っている方はもちろん、目や耳が不自由な方のためにも、私たちが一つ一つの行動をあらためて、良い街づくりをしていくべきだと思ったし、困っている方がいたら手伝えることなどを心がけて、障害を持っている方たちが快適に暮らせるようつくしたいと思う。

○お話の中で、歩道に自転車をとめてあり、通れず困っていたり、ゴミがタイヤについたりして困っていたというお話がありました。私たちがやったことで私たちが悪いなあと思いました。歩道に自転車がとまっていれば、端によせたりして通れるスペースをつくったり、ゴミが落ちていけば拾ったりしようと思います。これからはしっかり気をつけていこうと思います。

○休み時間トイレにならんでいるときに、段差にこまっていた東さんが「手伝ってくれる？」と声をかけてくださったのがうれしかった。これからは「断られたらどうしよう」とか考えず、自分から人助けをしていきたい。山本さんは他の障がい者の方々のために仕事をしていてすごいと思った。自転車が歩道にはみだしているとか、ゴミが道に落ちているとか、私たちが嫌なことだから知っている人だったら注意をしたり、ゴミをひらったりしたい。同じ人間なのに障がい者の方だけが、いやな思いをするのは絶対おかしいことだと思うから、みんなが平等に楽しく暮らせるように頑張りたいと思った。

○私は山本さんの話を聞いていて、すごく淡々と、そして明るく話す人だなあと思いました。けど、その話し方の裏側にはそんな物語があったんだなあ、聞き終わって、そう思いました。やっぱり人が変わるには、色々な人に出会わないと変われないんだなと思います。・・・・(略) 私は桂中生徒としてでも保健委員としてでも何かできることがあると思います。そういう小さなことでも障害を持っ

	<p>ている方には大きなことにつながります。障害があってもなくても同じ幸せを持てる世の中に必ずなしてほしいと思います。</p> <p>○車イスバスケットボール選手の方の話を聞いて、自分があまり言いたくない事や、いやなことを、その時は暗くても、何年後には笑い話になっている所がすごく印象深い。自分の中でくらくても、周りの人が、笑ったりする事で、変わるというのは、すごく良い事だと思った。これから自分がそういった人を見つけたら、出来るなら声をかけて助けたいと思った。しかし知識不足で、人に関わると失礼だと思うし、逆に迷惑になると思うから、しっかりと「知る」事から始めようと思った。最後に、自分がもし立ち直ることが出来なくなった時は、自分の事をもう一度見つめ直して、暗い方へ行くのではなく、明るい方、輝く方へ進んでいきたいなあと考えた。山本さん、東さんが、なぜわざわざ来てくれたのか、それは考えるまでもないと思うから、この体験を「楽しかった・・・」で終わらせるのではなく、これからの自分に生かしていきたいと思った。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の時間での体験だったため、車いすバスケットボール体験を通して、障がいのある人に対して自分たちのできることなどを考えさせるために、事前学習で班討議の時間を設けた。また、全員が車いすの体験をすることで、車いすで動くことのむずかしさをわかることができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が車いすを体験することに時間がかかり、選手の体験談のあとの意見交流の時間がとれなかった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボールを体験することは、なかなかできないので、1年生の後期人権学習で来年度も実施できればと思う。